

輸出事業計画（品目：かんきつ（温州みかん））

※申請者名：全国農業協同組合連合会長崎県本部、JA長崎せいひ、
JAながさき県央、JA島原雲仙、JAながさき西海

1. 輸出における現状と課題

【現状】

温州みかんの輸出事業については、カナダ向けに、ピーク時（平成26、27年度）輸出していたが、輸送中の腐敗問題を受けて平成29年度を最後にカナダ向け輸出は休止している。現在は、香港、シンガポール、台湾等を中心にアジア向けに、温州みかんが輸出されている。

【課題】

➤生産面

＜各国共通＞

- ①各JA選果場においては選果機が老朽化しており選果効率が悪く、また、選果場労働力も慢性的に不足していることから、特に出荷ピーク時など、国内向けの選果・出荷対応で手一杯となり、新たに輸送用の選果対応を行うことが不可能となっている。
- ②生産者の輸出に対する意識も醸成されているとは言い難い。今後は、生産者等の産地が輸出条件や輸出先国でのニーズも含め、産地として輸出に取り組む意識醸成を図り、輸出に向けた生産の転換と産地づくりを強化していくことが課題である。

＜ベトナム＞

生産園地の確認・登録やミカンバエ等の発生がないことを確認するためのトラップ調査が必要であり、そのための新たな検査体制の構築が課題となる。

＜台湾＞

残留農薬基準と台湾で設定されている残留農薬基準では大きく異なることから、台湾向けに温州みかんを輸出拡大するにあたっては、関係者で輸入時の農薬検査等の情報を共有した上で、先行産地への視察、台湾向け防除暦作成、国内向け温州みかんと台湾向け区分を徹底した選果対応等が必要となる。

➤販売面

＜香港＞

「国内向け市場出荷→卸→仲卸（→輸出商社等）→現地輸入業者→…」の流れで輸出を継続するだけでは、本県産温州みかんは、いずれ現地で他産地のブランドに埋没して、高単価を確保・維持することは難しくなることが考えられる。

＜シンガポール＞

需要が高まるクリスマス時期、旧正月（1月下旬～2月初旬）等の催事を意識した購買意欲が高まるパッケージデザインへの改良が課題。

＜ベトナム＞

本県産みかんを輸出したことがなく、現地での商品知名度・評価が確立されていない。

➤流通面

＜各国共通＞

輸出先国への輸送手段は船便がメインである。そのため、輸送期間が長く、輸送中の果実腐敗等によるロスが発生している。

＜ベトナム＞

船便で基本的に3週間強かかるため香港、台湾等への輸出と比べ腐敗リスクが高く、また密封箱等でなくてはならない。

輸出事業計画（品目：かんきつ（温州みかん））

※申請者名：全国農業協同組合連合会長崎県本部、JA長崎せいひ、
JAながさき県央、JA島原雲仙、JAながさき西海

2. 輸出事業計画の取組内容

【取組内容】

➤生産

＜各国共通＞

- ①限られた労働力・時間のもとで、長期輸送に耐えうる品質の温州みかんを選果選別し、それをなるべく鮮度を落とさず迅速に輸出専用箱に詰め出荷する対応をとるために、令和13年を目標に新たな選果機・選果ラインの整備を目指し、関係者と調整を図る。
- ②生産者やJA指導員等の輸出に対する知識向上・意識醸成を図るため、長崎県産みかんの輸出の現状や他県の輸出先進産地の取り組みに関する研修会を実施（計画期間を通して実施）。さらに、輸出先進産地となる他県温州みかん産地の視察と輸出に係る生産技術等のヒアリングを実施する。

＜ベトナム＞

- ①検査体制の構築には生産者や関係機関（JA単協、長崎県振興局の普及指導員等）に説明のうえ協力を要請し、調査の効率を上げるために団地単位での園地選定・登録や検査補助員の設置を目指す。
- ②ミカンバエを対象としたトラップ調査等の実施やベトナムの残留農薬基準に対応した栽培実証、残留農薬検査の実施、査察受け入れ時、登録園地の様子や選果こん包施設の仕様等について指摘があった場合の適切な対応を行う。

＜台湾＞

関係情報の収集と共有、生産支援体制の構築をすすめ、いずれかのJA（生産部会）より台湾向け輸出意向が示された場合、本格的に台湾向け温州みかんの生産等を行う。

➤販売面

＜香港＞

卸・仲卸、長崎県果実生産出荷安定協議会等と連携を強化して商流を安定させ、産地JA及び長崎県・長崎県農産物輸出協議会と連携して現地フェアや試食販売等を行い、本県産温州みかんのブランド確立・維持を図る。

＜シンガポール＞

ミキヤット（長崎みかんマスコットキャラクター）を全面に押し出すパッケージにより他県産みかんと差別化を図る。また、化粧箱パッケージを開発現地バイヤー等に輸出先国のニーズについてヒアリングを行いながら、催事の贈答用として購買意欲を高める新たな輸出向けパッケージの開発を産地・流通業者等と協議しながら全農が行う。

＜ベトナム＞

現地量販店や小売店等で試食販売等を行い、本県産温州みかんのブランド確立・認知拡大を図るとともに、現地バイヤーからの意見を参考に購買意欲が高まるパッケージデザインへの改良を必要に応じて実施する。

➤流通面

＜各国共通＞

- ①大都市青果市場経由での輸出から、近隣港（博多港）からの輸出へ転換することで、輸送期間の短縮や輸送コスト低減を図る。
- ②長期輸送に適した果実の鮮度保持のための包装の試用実証を行う。

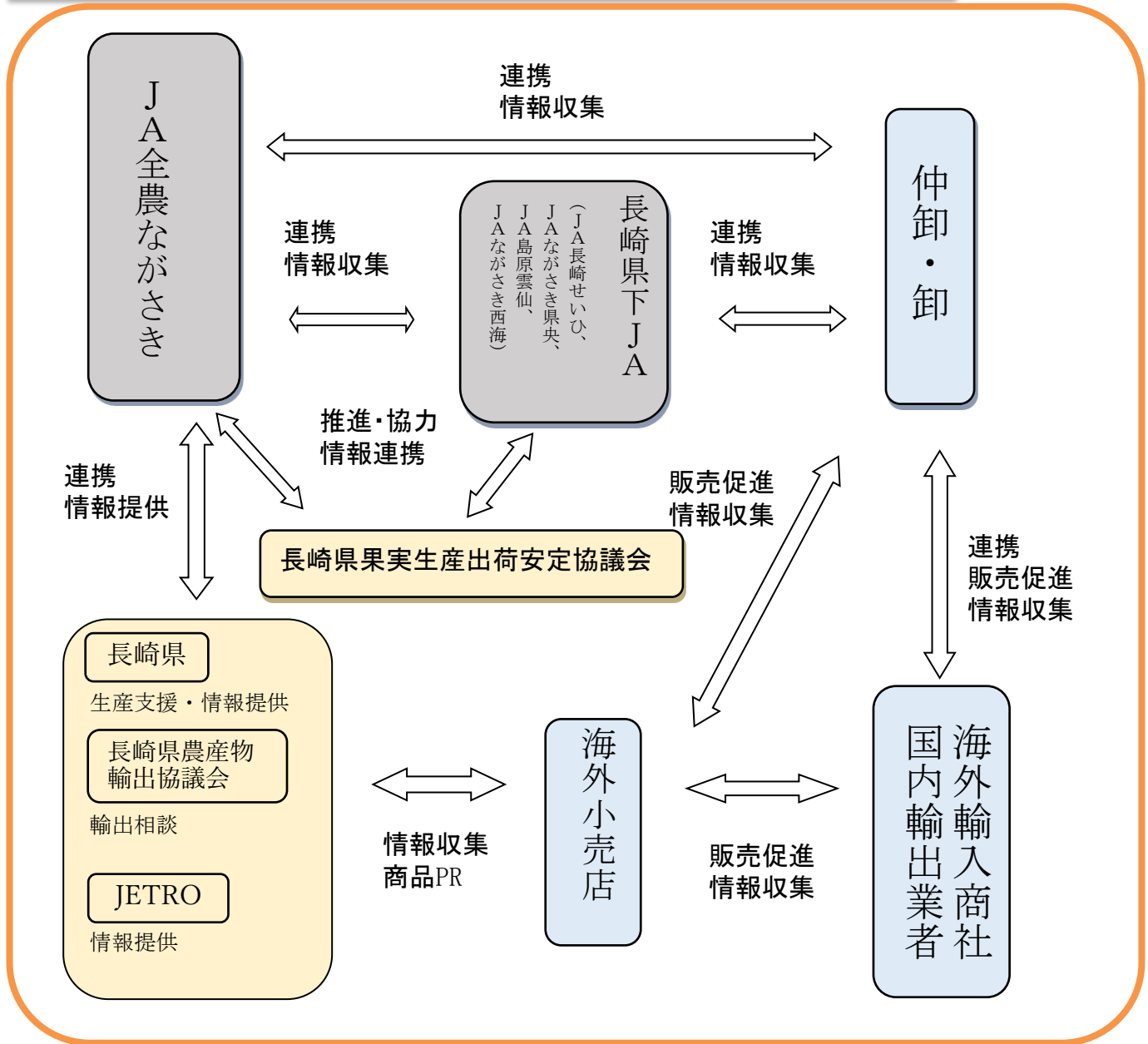
＜ベトナム＞

全農が国内でのこん包方法（密閉方法）の検討や輸送試験を産地・流通業者等と協議しながら、低コストで品質劣化の少ない輸送方法を確立させる。

輸出事業計画（品目：かんきつ（温州みかん））

※申請者名：全国農業協同組合連合会長崎県本部、JA長崎せいひ、
JAながさき県央、JA島原雲仙、JAながさき西海

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

かんきつ(温州みかん)

	現状（令和2年度）	目標年（令和9年度）
輸出額(千円)	26,784	100,000
輸出先国	香港・台湾 ・シンガポール	香港・台湾 シンガポール、ベトナム